

な問題が発生した場合を考慮して、やはり私は進めるべきだと思っておりますので、ひとつネットワーク構想につきましては、ダブルネットワーク構想につきましては、またひとつよろしくお願いたします。

それから、観光地の関係でございます。先般、上見坂公園までちょっと少し登ってみました、久しぶりに。巖原中学校から十数分で頂上まで到達いたしましたけれども、うっそうとした木々の中で、非常に今も昔も変わらない道路が続いていると、これは少し観光地として1つの名所となっておりますので、このことも踏まえて、やはり整備計画、そういった観光地のアクセス道路の整備計画も少し重点目標として進めるべきじゃないかと思っております。これも、上見坂に限らず、いろんな、豆殿崎もそうでしょう。一方通行しかございませんので、このあたり、本当の誘客をするということになりますと、まだまだ不十分でございますので、このあたりも、今後重要施策の一つに数えていただきたいなと思っております。

観光振興を考えますと、対馬市の道路整備促進ということで、トップダウンで実行されるお考えも十分今ひしひしと感じてまいりました。あと、8分でございますけれども、なかなか予算的にも厳しい状況でございます。やりますとは今言えないと思っておりますけれども、潤沢な予算が伴えば、即実行に移すことは可能でしょう。観光振興策を進める上で避けて通れない最重要施策です。これ何回も言いますが、今できないとこれからもできないと思っております。市長、比田勝市長の今の市政の中で、このことは継続的に進めていただきたいというふうに考えております。私の思いが伝わったと感じますけれども、若干消化不良でございますけれども、もう時間がまいりましたので、関連質問をこれで終わります。

以上です。

○議長（小川 廣康君） これで、新政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開を11時15分からといたします。

午前10時59分休憩

午前11時15分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

休憩前に引き続き、会派代表質問を行います。清風会、8番、渕上清君。

○議員（8番 渕上 清君） 清風会の渕上清であります。質問に入ります前に、市長、比田勝市政第1期目も余すところ4カ月弱となってまいりました。まさに、1期目、仕上げの時期でございます。市長就任時の公約の成果を一つ一つ検証して市民の皆さんからよくやったと評価を受けるよう、最善の市政運営に邁進すべきラストスパートの時期であります。そういうことをしつ

かり念頭に置かれての積極的な御答弁を期待して、質問に入ります。

さて、現今の対馬市の経済状況を見てみますと、残念ながら、対馬の経済は最悪の状態にあると言わざるを得ません。農業、林業はもともと大きく期待はできない上に、近年の水産業の衰退ぶりには目を覆うばかりでございます。加えて、この7月から日韓の国交の不具合から、韓国観光客が激減して、釜山対馬間定期航路開設後20年、ようやく韓国観光客の来島は500万人を数え、年間40万超えを記録して、年間約10億円の経済効果をもたらしていた観光産業は、一瞬にしてと申しますか、夢物語となってしまいました。このままでは、対馬の経済はいかなる産業をメインに行動をすべきか、全くお先真っ暗の現状であります。市民は、夢も希望もないと、不安な毎日をご過ごしておられるのではないかと拝察します。このままでは、対馬の過疎化は止めるどころか、ますます増加していく傾向は免れません。この最悪の危機的な対馬の経済を脱却するには、行政が、市長が先頭に立って、命がけで改善策を模索することに当たっていくべき事案でございますから、しっかりとその対策等をお聞かせいただきます。

そこで、今回は、質問通告をしておりました喫緊の課題である激減する韓国観光客の緊急的対応策について質問します。この最悪の状況を打開するには、行政手段に委ねるしかありません。当然のことながら、対馬市当局におかれましても、既に現状分析がなされ、その改善策について検証、検討がなされているはずですから、まずは、その状況についてお知らせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 清風会、渕上議員の御質問にお答えいたします。

議員おっしゃられるように、日韓関係の悪化によりまして、7月から韓国人観光客が激減し、7月には約4割、8月には8割、9月以降は9割減といった状況であることは御存じのとおりでございます。消費額もこの4カ月であくまでも推計でございますが、約23億円が減少したと思われまます。日本全体を訪れる韓国人観光客は4カ月連続で減少し、約65%の減となっております。日本旅行ボイコットの機運がまだまだ尾を引いており、韓国社会に気を使って日本旅行が非常にしづらい状況にあるとのことであります。対馬釜山事務所からの情報によりますと、GSO MIA問題で韓国内はまだもめており、来年春には国会議員総選挙も控えているため、まだまだ時間はかかりそうだということでありました。9月議会の答弁の中でも申しましたが、釜山の旅行社は開店休業状態の旅行社が多く、対馬旅行を募集しても応募が全くない状況が続いているとのことであります。このような状況の中で、観光プロモーションを行っても、韓国人には全く響かず、マイナスになる可能性があるかと判断し、時間を置いて、潮目が変わる時期をうかがっておりました。このような中、11月に少し復調の兆しが見えてきましたので、観光客の戻りのきっかけになればと思い、行政報告でも申し上げましたとおり、対馬国際航路開設20周年、航路利用500万人達成を記念して、対馬市国際諮問大使の姜南周先生の御出席もいただき、対馬観光

レセプションを釜山市で開催いたしました。参加者は104名と盛会に終わりましたが、旅行社のお話を聞けば、まだまだ厳しい状況が続いているとのことでありました。しかしながら、対馬市からの思いは、船会社及び旅行社の方々には、届いたものと思っております。帰りの際には、一緒に頑張りましょうという声もいただいているところでございます。

また、現在の韓国人観光客は、団体客から個人客に年々シフトしてきております。実際、現在来ていただいている観光客のほとんどは個人客であります。このような流れも踏まえながら、即効性があり、効果的な対応策を打たなければならないと考えております。9月補正予算でも、総事業費約1億900万円の観光客激減対策を実施しておりますが、現在、担当課及び関係機関と実現可能な対応策を協議しており、復調の兆しが見えてきたこの時期を逃すことなく、1月中をめどに臨時議会をお願いし、さらなる対策に係る補正予算を別途御提案させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） ありがとうございます。対応策、具体的にはまだお知らせをいただけませんでした。まずは安心しました。まさか、対馬市は、自然回復を願って、傍観といえますか静観しているはずはないと思いつつも、市当局の対応策の検討状況が聞こえてこないもんですから、きょうは、チョコちゃんではありませんが、ぼーっとしてんじゃないよと声を大きくしなければかなと思っておりましたが、対応策はしっかり練っておられるようですから、まずは安心しました。

そこで私は、現状が今比田勝港に何か船会社2社の共同経営で航海がなされているようで、韓国国内からの私の耳に届いたのは、非常に対馬の見るところがないというか、評判が少し下がっているような状況もあるようです。それも、いわゆる比田勝港に入って、比田勝港から帰れば、島内の地理的な状況から、厳原のほうまで行って、中世、近世の韓国との歴史の関係の場所とか、そういうところをめぐれば、また上まで登って帰られにやいけませんから、また島内の交通費も随分かかるし、どうも上のほうだけの観光して帰っておられるようで、見るところが少ないようでして、三宇田浜と韓国展望台、スーパーあたりも寄られるんでしょうけど、それだけでは、対馬の評判も低下するのは当然でしょう。11月に少しはよくなってきている向きもございますから、この際、1日でも早くもとの状況に回復するような仕組みをつくるためには、その流れをつくるためには、やっぱり欲を言えば週二、三回、少なくとも週一、二回は厳原港へ開港を願わなければ、回復の兆しがどんどんおくれると私は見ておるんです。そういう意味で、ぜひとも何らかの対策を練られて、厳原港に就航が可能になるように、ゆっくり考えるんじゃなくて、1月には何とかしましょうと、何とかしなければなかなか回復は早まってこないと私は見ているんです。

が。市長、その辺はどうお考えでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、厳原港のほうに就航をさせなければならないということは、私たちがかねがね考えているところでございます。市といたしましては、この韓国人観光客の誘客を高めるための助成制度につきまして、今まさに検討しております。先ほども申しましたように、1月に予定をしております補正予算では、国の支援をいただきながら、国内外の観光客が比田勝港と厳原港を利用し、島内の周遊観光をしていただいた方への助成制度や宿泊施設の水回り等を改修する施設の向上対策につきまして、多岐にわたる内容を御提案させていただき予定としております。特にこの周遊助成制度につきましては、比田勝混乗便の観光客利用を促進し、また、韓国の旅行社からも大変強い要請がっております比田勝イン厳原アウト、または厳原イン比田勝アウトの合理的な旅行商品造成に寄与するものと思われまますので、運航会社にも、厳原便就航の後押しになるものと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 今の方策は、全くそのとおりだと思いますが、その方向だけでは、将来的に向けて、長期的にはその方向でいいと思うんですけども、その状況、醸成して、実施に移しても、ある程度お客が来るようにならなければ、船会社は動きませんよ。そのためには、やっぱり思い切った手を打って、逆に航路開設ができるからアップしていくんだという、アップしてくれば船会社も通ってくれるよという方法ではだめですよ。だから、ぜひ、来月、1月には、その船会社も厳原港のほうに何とかしましようというような施策をとってもらって、ぜひとも回復が早まるようにしてもらわんと、皆さん起業しておった方も大変ですけど、不定期就労者の皆さん、困り切っておられますよ。ぜひ、この正月ぐらいには、そういう見込みですよということを発表できるような仕組みをつくって、いい正月にしてやってくださいよ。これは、民間の皆さんがどんなに頑張ってもだめです。行政が、市長がやる気にならなければ、先に進みません。ぜひ、思い切って、韓国観光客が500万人来ておりますが、ターミナル使用料で、およそ5億円対馬市に入っております。その辺を、国の補助も結構ですけど、少し還元して、5億円の五、六%、二、三千万使って、しっかりやったらどうかと思うんですが。

この観光産業というのは、補助金関係ですけども、農林業はおおよそ生産額に対して2割ぐらいの補助金使っておりますよ、市は、予算書によると。水産も、およそ6.4%ぐらいが生産額に対して補助金、観光産業、特に韓国については、補助金はないでしょ。対馬市は補助金使わずにターミナル使用料は入ってくるわ、経済効果は年間100億もあるような、こういう優位な産業はほかにはないですよ。この際、それを復活するために韓国の皆さんが納めてくれたターミナル

使用料の蓄積のうち、5億円のうち、五、六%使いませんか。そして思い切った施策を打って、1月には厳原港に入るようになりそうですよというような報告が市民の皆さんにできるようにしてほしいと思うんですが、いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おっしゃられることはよく理解をできます。それでまた、私もこのターミナル使用料の関係、資料をちょっといただきまして、見ますと、平成22年度から30年度までを集計いたしますと、約3億8,300万ほどターミナル使用料ということで入っております。それで、このうちの大部分は、施設の維持管理費ということで、既に執行しているわけですが、このうちの五、六%を使えばどうかというような御提案でございます。今現在、先ほども申しましたように、この1月に数億の補正予算をお願いしたいと思っておりますし、また、3月の補正と平成2年度の当初と合わせた部分でのまた補正も今国と県と協議をしているところでございます。そういう中で、先ほど申しました観光客の周遊の促進につきましては、二、三千万よりまだはるかに多くの予算を準備したいというふうに今考えておりますし、またこの3月、そしてまた来年度における予算等につきましては、さらに5,000円のクーポン券も準備をするようなことで、今現在、国、県と協議を進めさせていただいているところでございます。

議員おっしゃられるように、我々もできる限り早く韓国のお客様がV字回復していただくような施策をとってまいりたいというふうに考えておりますので、御協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、今、答弁の中での平成2年ということでございますが、令和2年に訂正をお願いしておきたいと思ひます。

○市長（比田勝尚喜君） 大変申しわけございませんでした。平成2年ではなくて、令和2年ということでよろしくお願ひをいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、瀧上清君。

○議員（8番 瀧上 清君） その施策、大いに結構なんですけど、国との交渉とかいろいろ、補助金も頼っている、長期的なそれはその方策をして、1月補正、1月に臨時会等やったり、3月補正していると、1月に船は入らんですよ、厳原に。思い切った単独費でも、直接的な対策を練らんと、相手があることですから、相手の韓国サイドの船会社が厳原港に入るという意欲になってくれんと、そういう希望的なものでは、厳原港には船入ってきませんよ。だから、単独費を、これだけ収入があつておるんだから、そのうちのものを使ってでもやったらどうかという提言をしているわけです。だから、思い切らんとこれはどんなに意欲があつても、思い切った手を打たんとだめです。市長の手腕にかかっていますから、ぜひとも、1月に。本当にやる気があるなら、臨時議会とかで、予算を云々と言わんで、この議会中にでも、全協にお願ひして、専決

でもやる了解をとつとかんですか。そうせんと、1月には船が巖原港に来ません。市長の手腕にかかっていますよ。ぜひとも、この実現がなるように、ここで何とかしますという、胸をたたいて御回答をお願いします。やりましょうと宣言してください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたように、このターミナル使用料の予算の一部もここに入れながら、実は国のほうとも今協議を進めているところでございますし、国のほうが過疎のソフトをここに充当できんかということで、いろいろと御指導もいただいているところでございますので、過疎債ですから、どっちか言うたら単独と同じようなところと言わざるを得ないとは思いますが、この4,000万、今ここにすぎ込む予定で準備を進めているところでございますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 時間が来ましたんで、あとは関連質問を大浦議員がします。

今、本当に困っておられますよ。この状況を悠長なことをしとつたらだめです。今やるのは市長しかおらんのです。それをしっかりと胸にたたみ込んでやってください。大いに期待しています。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。清風会、15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでは、関連質問を行います。清風会の大浦孝司でございます。

残り20分ぐらいしかありませんので、質問のほうの内容には省略いたします。

まず、9月定例会におかれまして、この金融対策を、とにかく運転資金等で、非常に困つとる方がある、これをどうするか、これは、長崎県の資金繰り緊急対策等のことや、市も独自に考えようと、このようなことを定例会では聞いております。この成果、実態はどうなのか。それから、県とタイアップの宿泊の料金の値下げ、1人1泊3,000円、これが観光客及びビジネスの仕事上対馬に来る方も対象とすると。これの実績がどうなったのか。

それから、国境離島予算の関連でありまして、滞在型促進事業の現段階での実績、まずはこの3点のどれだけ対馬に国内対策で、韓国観光客の流入を方向転換するんだと。国内の観光客を推進することでこのピンチをチャンスに変えにゃいかんという思いのもとに予算を組まれたわけですが、そういうようなことを取り組まれる中で、今後のその方向性を市長はどのようにとらえ、その期待はどういうふうに思っておるか、ここらを直接市長の口からお伺いしたい、かように思っております。

それと、最後に、大変、先ほど会長が言いますように、もがき苦しんでいる経営者の実態とい